

「整備新幹線に係る政府・与党ワーキンググループにおける合意事項」

に関する意見について

平成21年2月13日

長 崎 県

九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）につきましては、昨年3月に武雄温泉～諫早間が工事実施計画の認可を受け着工され、既にトンネル工事が発注されるなど、事業は順調に推移しております。長崎までの延伸がなされれば、更なる交流圏の拡大や西九州地域の経済の活性化に結びつくものと考えており、昨年12月16日の政府・与党ワーキンググループで長崎駅部等の整備方針が示されたことにつきまして、深く感謝申し上げます。

一方、これまで長崎県や県内沿線各市、民間団体など、諫早～長崎間の整備が実現できなければ整備効果を最大限に発揮できないとの認識のもと、強く長崎延伸を要望してきたところであり、西九州ルート武雄温泉～長崎間の一括開業を強く期待しているところであります。今後の検討につきまして、是非ご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

さて、御照会のありました「整備新幹線に係る政府・与党ワーキンググループにおける合意事項」に関する長崎県の意見につきましては、以下のとおりです。

1. 「1. 新規着工区間」で示された長崎駅部の整備に対する意見

(1) 長崎駅周辺地域の状況

長崎市は、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」や「九州・山口の近代化産業遺産群」といった世界遺産候補、被爆地長崎市のシンボルゾーンである平和公園、江戸時代にわが国で唯一西洋との窓口であった史跡「出島」など、世界的にも価値の高い文化・観光資源が数多く存在しております。

昨年12月、長崎駅周辺を含む地域は、観光立国（ビジット・ジャパン）を牽引する都市である『国際観光文化都市・長崎』の再生という観点から、都市基盤整備等を集中的かつ重点的に実施する必要性が高く、都市再生総合整備事業の実施区域（都市・居住環境整備重点地域）に指定されました。

今後、現在建設中の九州新幹線西九州ルートを中心とした陸の玄関口や旅客船ターミナル等の海の玄関口といった広域交通拠点の整備により、大正から昭和初期の上海航路時代に長崎が果たしていた国際ゲートウェイ（玄関口）機能の再生と、多様な歴史文化・観光資源の保全と再生、歴史文化・観光資源と各拠点的地域を有機的に結ぶための回遊性の向上を進めてまいります。

現在は、国際観光文化都市長崎の玄関口にふさわしい都市拠点を形成するため、「長崎駅周辺土地地区画整理事業」及び「JR長崎本線連続立体交差事業」を今年度末の事業認可を目標に推進しているところです。

（2）長崎駅部の整備範囲について

西九州ルート武雄温泉～諫早間の整備により、概ね10年後には日本初となるフリーゲージトレインが長崎駅に乗り入れることとされておりますが、これに合わせて、「JR長崎本線連続立体交差事業」による在来線の長崎駅舎の整備を完成する見込みです。

したがって、新幹線長崎駅部の整備については、『国際観光文化都市・長崎』にふさわしい陸及び海の玄関口として、在来線の長崎駅部と一体的に、新幹線駅部の高架橋や駅舎を含んだ施設を整備することが必要であると考えます。

同時に、高架橋や橋りょう等の建設費が相当にコスト縮減され、また、駅舎整備では調和のとれた景観となるようデザインをはじめとした上屋の整備が可能となり、且つ、各事業の共通部分での手戻りを最小限に抑えることが可能となります。

また、土地利用の面でも、長崎の交通結節点及び都市拠点として、多様な土地利用の高度化が進み、異国情緒が漂う長崎らしい発展が大いに図られると考えております。